

「われは主のつかいめなり、仰せのごとくわれになれかし」。聖母マリアの全生涯を貫くものは、「ファイアット」、即ち従順の精神であった。救世主をこの世にもたらしたのは、マリアの従順であった。この従順は、人々をキリストに導き、永遠の救靈を約束するものである。聖子は聖父の御命令に従つてこの世にお降りになり、人々を救うために苦き盃、即ち十字架上の犠牲を承諾

され、現代に至るまで、この精神を受け継ぎ、また世の終りまで伝えて行くであろう。それは、神が備えておられる総ての恩恵が、この従順によつてのみ人に注がれるからである。



「ファイアット」の成就

桂教会主任 岡

神 父

父

ロレンス・オニール師
小山教会助任
ジョゼフ・ハーメス師
西陣教会助任
ジョン・ヴィンスコ師
伊勢教会助任
(以上七月十五日付)

神学校短信

東京カトリック神学院は、神学部(練馬区石神井町)と哲学部(千代田区四番町)とに分れているが、現在神学部には六十名、哲学部には八十二名の神学生が、北海道、本州、四国の各教区から召し出され、司祭となるべき修徳と勉学に励んでいる。(九州の各教区の神学生は、福岡の大神学校で学んでいる。)京都教区の神学生は、現在二十名である。

キリストの神祕体の一員としての自覺が叫ばれ、キリストの教会のために戦う使徒職に対する熱意が盛んになりつつある今日、信者の一人一人が、聖母マリアの従順の徳になら、聖旨が地上においても実現されるよう、多くの犠牲を払つて神の國の建設に邁進しなければならない。聖母は、その一生を通して、絶えず神の聖旨を求め、その聖旨を果すために常に従順を実行されたのである。聖母が従順であったのは、神の聖旨をよく知つておられたからである。聖母がお告げを受けられたとき、神の聖旨も分らずに「ファイアット」とお答えになつたのではなかつた。



古屋司教認可
発行所 教区事務所
一部 10円
一年 100円
定価 約一
年

それは、「汝より生るべき聖なる者は、神の子と称えらるべし」という神の聖旨を知られたからである。眞の従順は盲目的なものではなく、理をわきまえた上ででの従順でなければならぬ。「ファイアット」は受身の応えではなく、むしろ神の聖旨を求めて従う積極的な態度である。「先づ神の国とその義とを求める」といふ。

司祭の異動

神学生が有望な司祭となることができるよう祈ると共に、より多くの人々が召し出されるよう主に願わねばならない。

第一回全国野営大会に対する
「メツセージ」

神学生が有望な司祭となることができるよう祈ると共に、より多くの人々が召し出されるよう主に願わねばならない。

カトリック・ボーイ・スカウト

哲学部 哲学科生 二名
ラテン科生 四名

大神学校 神学部 四年生
四年生 アロイジオ 花井拓夫
ミカエル 泉英元
(二名は助祭)
三年生 二名 (侍祭)
二年生 一名 (読師)
ク 二名 (剃髪) 在ローマ
一年生 一名



(写真説明)

神と国とに誠実をつくし、他人への献身と奉仕、自己の精神と肉体の修練に励むことを誓うボーイ・スカウトは、神と人間に嘉みされる最もすばらしい青少年運動である。このたび、東京オリンピックを目指して、神とスカウティングにお前にして、神とスカウティングにおける大会が行なわれるることは、まことに意義深いことといわねばならない。人間が永遠のために生きていることを知っている諸君は、現代文明の生み出した悪や安易な生活におぼれることなく、名声と享楽を追わず、より高いものを求めて、絶えずスマ・コルダ、即ち心を天上にあげるよう努めよう。教皇パウロ六世が第十一回世界ジャンボリー大会において「より高く、そしてより遠くを」求めるようにしよう。

諸君が大自然の中に、自己のありのままを認識し、神の創造のみわざの偉大さを見出すことができるようになり、名聲と享樂を追わず、より高いものを求めて、絶えずスマ・コルダ、即ち心を天上にあげるよう努めよう。教皇パウロ六世が第十一回世界ジャンボリー大会において「より高く、そしてより遠くを」求めるようにしよう。

あなたたちは、地の塩、世の光である」(マテオ書第五章)。

京都大学カトリック研究会よりのお願い

京都大カトリック研究会は、古く明治以来あるにも拘らず、その完備した卒業生名簿がありません。此度、当カトリック研究会では、先輩諸氏が当研究会で得られたものを如何にして活かしておられるのかということ、そして今、われわれのやつていていること、機関紙、講演等を互いに知つて、先輩との交流を深めたいと考え、名簿作成を計画しております。

(連絡先) 京都府左京区下鴨下川原町四十六 中野方 山下晴朗 宛



七月六日(月)、九条教会において、藤堂神父様ご指導のもとに、婦人

婦人レジオ会員の黙想会

一於九条教会—

トこそ生き給う」その他多くの著書
があり、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、オランダ

任教授で、今回は上智大学神学部主
任教授で、当地に招へいすることができ
た。師には、「来たるべき世界」、「キリストとその信者」、「キリスト

語等に翻訳されている。更に師は、
(上)まで、ノートルダム女子大学
において、イエズス会員ロバート・
グリーンスン師を招き、外人修道女の
ために特別講習会が行なわれた。

同師は、フォーダム大学神学部主
任教授で、今は上智大学の好意に
より、当地に招へいすることができ
た。師には、「来たるべき世界」、「キリストとその信者」、「キリスト

語等に翻訳されている。更に師は、
アメリカで有名な講演者でもある。
この度の講習会の講演内容は、主
としてアメリカでなされている神学
における新しい考え方、説明、解釈
についてであり、故国を離れて働く
外人修道女にとって、感銘深いもの
であった。

この度の講習会を主催したノートルダム会

に深い感謝をあらわし、同様な催し
が再開されることを切望しつつ散会
している。

尚、来年度も、今から計画がなさ
れていた。

講演をして下さったロバート・グ

リーンスン師

(写真説明)

トマス・リード

トマス